



小野寺 克己

自殺予防対策の推進と
ストレス耐性向上を

問 ① いじめ発見ポイント
を先生と親が共有すべ
きと要望するが、取組の実
施状況は② ストレス耐性向
上についての講演の検討は。

答 ① 教職員の階層研修等
で定期的に指導を実施
している② 今後の健康教育
の中で、ストレスコーピン
グについても検討。

聴覚障がい者との
コミュニケーション

問 ① 障害で会話が困難な
方に有効な iPad ア
プリ「こえとら」について
② 高齢者施設で聴覚障がい

者に手話の支援については。

答 ① 円滑な窓口サービス
を提供する有効な手段
調査研究する② 手話通訳者
の確保ができないので対応
は難しい。

首都直下型地震、都市水
害への防災対策

問 ① トイレの確保・配備
の計画や排泄物の処分
の検討状況は② 三島市の市
民が自らトリアージ訓練す
る講座に参加して検討を。

答 ① 貯留式、マンホール
対応型合わせて157
台備蓄、市内し尿処理業者
と合同訓練を行っている②
今後の検討としたい。



石川 和広

災害時の初動態勢に
ついて

問 ① 大規模災害時は初
動・即時対応要員には
147名が必要とのこと、
現状の市職員市内居住率で
可能なのか② その対応策は。

答 ① 市内居住率27.6%。
② 市長の指示で、市内居
住推進策の検討に着手。

アプリソフトを活用した
広報・サービスについて

問 スマートフォンの普及
に伴い、アプリのフッ
シユ通知機能を活用した広
報誌アプリやゴミのアプリ



亀井 和美

住み慣れた地域に住み
続けるために

問 ① 認知症に対する早期
発見の取り組み② 軽度
認知障害の認識③ 見守り体
制の課題④ 初期集中支援
チームの課題や問題点。

答 ① 「知って安心認知症」
配布等② 日常生活に問
題ないが認知機能低下状態
③ 在宅者の24時間見守り体
制等④ 支援後の安定支援等。

地球にやさしいイベント
にリユース食器を

問 ① 4Rに取り組んで来
た結果、ごみの削減状
況② リユース食器に対する
認識③ リユース食器導入に

向けての課題や問題点。

答 ① 平成28年度は対17年
度比24%削減② 環境負
荷軽減効果を認識③ 回収率
向上のための周知や保証金
預かり等対応が必要。

子どもの視力を守るため
には近視視力検査が必要

問 ① 遠くの物を見るのは
遠見視力、近くを見る
のに必要な近見視力に対す
る認識② 近見視力検査に対
する児童青少年部の認識。

答 ① 読書・パソコン操作
等、日常生活の大半で
使用しているものと認識②
周知を図り、関係部署とも
連携しながら検討する。



佐々木 貴史

狛江の教育について

問 ① 昨年末に制定された
教育機会確保法につい
て市教育委員会の見解を伺
う② これまでも不登校への
取り組みがされているが現
状と課題は③ 新学習指導要
領が改訂されたが新たな教
育課題、対策について伺う。

答 ① 関係機関等と連携を
図り、社会的自立に向
け各方面から支援すること
が重要② ゆうゆう教室の体
験活動を強化等③ 小学校の
外国語活動等への支援方法
が課題。学校事務の共同実
施導入計画を進めている。

市民要望の実現に向けて

問 ① 熱中症対策及び災害
時避難所となる小中学
校に冷水器の設置を② 災害
時の情報伝達・避難誘導の
必需品であるLED発光に
よるサインボードの設置を
③ 成年後見制度に関し司法
書士等の活用を要望。

答 ① 先行して小・中学校
に冷水器を設置してい
る地域を参考に検討してい
く② 優先順位等を踏まえ、
今後検討したい③ 市町村計
画の策定等の際は専門職の
活用について検討したい。



吉野 芳子

義務教育後の若者の切れ
目ない支援を行うために

問 ① 狛江市の若者育成支
援の現状と実態把握の
方法② 青少年会議の提案の
実現③ 常設型プレーパーク
を中高生等の居場所とでき
るか④ ひきこもり支援藤里
町の先駆的取組とは⑤ 非行
克服支援センター事業内容。

答 ① 計画を策定中で、ア
ンケート調査を検討②
新設児童館の設計に反映③
長く続けることが重要④ ひ
きこもりや障がいの方を包
括的にケアする福祉の拠点
⑤ 学習、交流、非行相談、
立ち直り支援等。

市民とつくる安心安全な
まちへ適切な情報提供を

問 ① 転入した市民への防
災意欲・関心の向上策
② 三中の防災訓練の目的と
内容③ 液体ミルクの市の認
識④ 小田急電鉄の帰宅困難
者対策⑤ 避難所生活の長期
化による配慮⑥ 外環道工事
進捗等の住民への情報提供。

答 ① 防災ガイド配布② 担
い手として防災行動力
の向上等③ 有益と認識④ 狛
江・和泉多摩川駅に飲料水
等備蓄⑤ 特定の人に負担が
掛かぬよう応援職員等を
確保⑥ 情報を丁寧に提供す
るよう事業者へ伝えている。



山本 暁子

住み慣れた狛江で安心し
て暮らし続ける為に

問 ① 小規模多機能型居宅
サービスの周知② 看護
小規模多機能型居宅介護今
後の計画③ 新総合事業新た
なサービス担い手不足改善
④ コミュニティソーシャル
ワーカー配置⑤ 地域ケア会
議でボトムアップした課題。

答 ① 地域包括支援セン
ター等に周知を依頼す
る② 介護保険推進市民協議
会の審議を踏まえ計画に位
置づける③ 事業参入と利用
定員枠の確保をお願いした
④ 早期配置に向け検討⑤ ご
み屋敷問題を課題。

学校における人権と安全

問 ① 部活動とは何か② 全
員顧問制度の見直し③
部活動時間と学力の関係性
調査④ クールビズ期間中の
校則について⑤ LINE い
じめ把握と対策⑥ 学校で守
られるべき先生と生徒の人
権。

答 ① 責任感等の能力育成
に資するもの② 国等の
動向注視③ 部活時間と正答
率関係が明らかに④ 柔軟な
対応を勧める⑤ 生活指導主
任会で把握。SNSルール
作成を家庭に依頼⑥ 大切に
されている実感を持てる等。

用語解説

- ※1…特別な事情なく長期間国民健康保険税を滞納している世帯に交付する有効期限6カ月の短期被保険者証。
- ※2…1つの役割でなく、ハンガーがイスに変化する等の変形する家具。
- ※3…アイデアを実現するために必要な費用や天災等の緊急支援が必要な時に通常インターネット経由で支援を呼びかけること。
- ※4…日常生活に支障がないものの、認知機能に低下が見られる状態。
- ※5…交差点などの視認性を高めるため、路面に埋め込む金属製の鋸。
- ※6…物事を簡単な絵柄で記号化して表現するもの。
- ※7…ひきこもり生活を続けるなどして安定した収入をもたないまま50歳近くに達した子供と80歳近くとなった親の世帯。
- ※8…ストレスを感じたときに、ストレスの原因を解決しようと試みたり気晴らしなどの行動を起こすこと。

- ※9…文字と音声を相互に変換できる支援アプリケーションソフト。
- ※10…大事故・災害などで同時に多数の患者が出た時に、手当の緊急度に従って優先順をつけること。
- ※11…対象のアプリケーションソフトを起動していなくても、端末に更新の通知を知らせてくれるシステム。
- ※12…真っ暗な状況の中でも明るい光源で鮮明な文字が浮かんで見える電光掲示板。
- ※13…施設への通いを中心として自宅に来てもらう訪問、その施設に泊まるサービスが柔軟に受けられるものに訪問看護のサービスが加わったもの。
- ※14…個別支援、小地域での生活支援の仕組みづくり等を担い、住民と協働して問題解決に取り組む人。